



あびこ市民活動 ネットワーク 会報

令和 2(2020)年 7 月 15 日発行

第 54 号

発行責任者 宇野真理子
我孫子市湖北台 4-11-16



コロナ禍から学んだことを今後の活動に生かそう！



あびこ市民活動ネットワーク

代表 宇野 真理子



1 月の中国武漢市から始まったコロナは、世界を駆け巡り猛威を振るっている。私たちはコロナ禍から様々なことを学んだ。いまだ収束しない目に見えない敵との戦いに心がしぼむこともあった。

しかし、この体験を生かさないと何も変わらないと思う。そのために アンケート調査を実施させていただいたし、地域活動をやり易くするための工夫も知恵を出し合っていかなければならない。

地域活動のあり方も再考してみる機会を与えられたのかもしれない。そんな状況の中で今年度事業が始まります。

5つの分科会を中心に、指定管理者とともに協働してできる事業は連携を取りながら進めていきます。特にオンライン会議等の講座や実践は、将来に備えスキルを高めていければ良いと考えます。また、市民活動指針の見直しの年でもあり、担当課とじっくり今後の地域活動についての方向性を共有するチャンスだと思います。

今年もご協力をよろしくお願い致します。

新型コロナウイルス感染症を受けて、市の行事等の考え方について

我孫子市役所市民活動支援課

我孫子市では、千葉県内で複数の感染者が確認されたことから、速やかに感染予防対策をとれるよう、令和 2 年 2 月 25 日午後 4 時に我孫子市新型コロナウイルス感染症対策本部が設置されました。

その対策本部の中で、公共施設の閉館や小中学校の休校、市で実施するイベント等の考え方について取りまとめ、感染予防対策に取り組んできました。

今後のイベントの開催判断の目安や条件については、千葉県からの協力要請のとおりとし、次の基準の中で判断していきます。

【開催判断の目安】

屋内 100 人かつ定員の半分以下、屋外 200 人以下を目安とする。

【開催の条件】

- ① 「3つの密」が発生しない席配置や「人と人との距離の確保」
- ② 「マスクの着用」
- ③ 参加者名簿を作成して連絡先等を把握しておくことなど催物の開催中や前後における選手・出演者や参加者等に係る行動管理など、基本的な感染防止策を講じる。

今年度に予定している市民のチカラまつりにつきましても規模を縮小し、時代に即した形で実施ができるよう準備を進めていきますので、事業の実施に向けご協力くださいますようお願いいたします。

訂正記事

あびこ市民活動ネットワーク会報 53 号において、お名前に誤りがあり、大変申し訳ございませんでした。下記のように訂正をさせていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

※ 1 ページ下段左側 下から 10 行目 (誤) 上村菜穂子氏 ⇒ (正) 上橋菜穂子氏

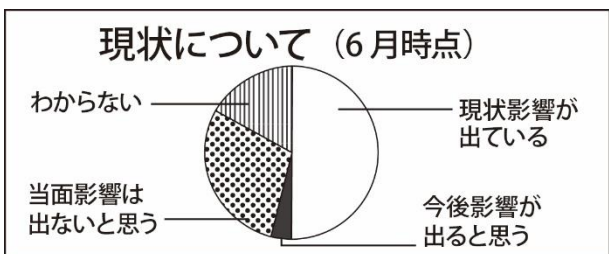
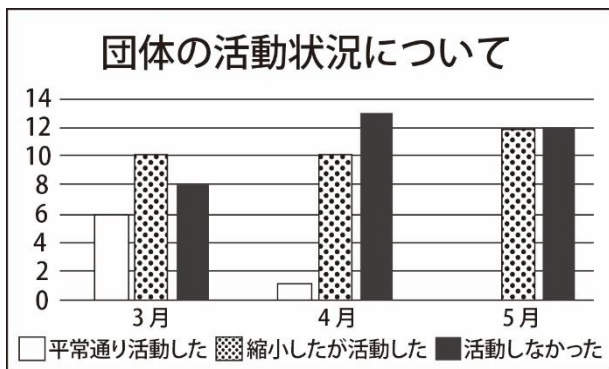
＜ も く じ ＞

- 1P コロナ禍から学んだことを今後の活動に生かそう！/新型コロナウイルス感染症を受けて市の行事等の考え方について
- 2P~3P 新型コロナウイルス緊急アンケート調査報告
- 4P コロナ禍の中での障がい者施設 /問題山積の生涯学習講座
- 5P [分科会の活動]: 子ども分科会 /地域包括ケア分科会 /防災分科会 /市民活動支援分科会
- 6P まちづくり分科会 /役員会報告 /市民活動ステーションからお知らせ

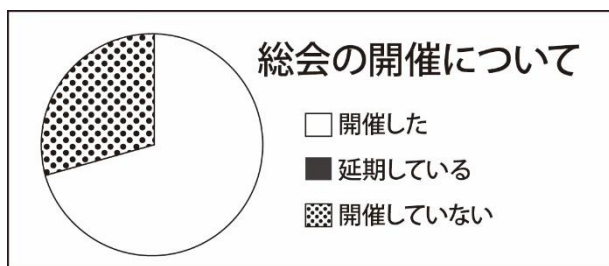
新型コロナウイルス関連の緊急アンケート調査のご報告

あびこ市民活動ネットワークでは、新型コロナウイルスの発生による緊急事態宣言などの状況下で、各市民活動団体がどのように活動を継続されたか、どんな点に不安や不便を感じられたか等について、6月上旬に全会員に向けてアンケート調査を実施しました。24の団体から回答がありました。

Q1 団体の活動状況について



Q2 団体の総会はどうに開催しましたか？



(その他の意見)

- この時期が総会時期でなかったため影響はなかった
- 会員が少ないため、資料内容のお知らせのみとした

Q3 どのような形式で総会を開催しましたか？

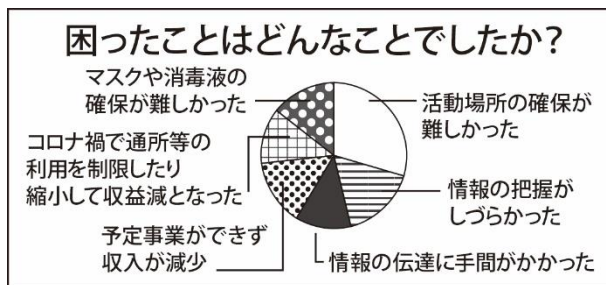
- 書面で総会を実施した・書面評決とした／7団体
- 総会資料を送付し、委任状を集めて(書面評決含む)少人数で総会を開催した／4団体
- メールのやりとりで決議した
- メールに資料添付し、会員に賛否や意見を求めた
- 資料の内容をお知らせするのみとした 7

- 総会案を送付し、「原案通り承認」とした
- 屋外で密にならないよう実施した
- 総会資料を会報と一緒に送付。書面審査で委任状を提出してもらった
- 総会資料と委任状を送付。総会は理事・監事の可能な者だけ出席。委任状にアンケート欄を設け、会員の声を集めた
- 開催場所がなく、一般の貸し会議室を使用。最小限の参加者とし、他はメール等による議決権行使とした
- コロナ前の2月に実施したため影響なし

(その他の意見)

- ※資料印刷をステーションが請け負ってくれてとても助かった
- ※予定していた公開講演会は中止した

Q4 3~5月の期間、困ったことはどんなことでしたか？



(その他の意見)

- 農作物の播種・植え付けは自粛することができず、少人数で行うなどの措置を取った
- 講演会を中止したが、無料の予定だったので収入減はなかった
- 実際に会っての会合は延期続きだったが、感染を防ぐ意味では理解されていたと思う
- 補助金等の給付の考え方が自治体ごとに違っており、こちらから聞かなくては具体的なことを教えてもらえなかった
- どこまで自己判断で動いたらよいかかわからなかった。行政から指示がなく、判断は団体に一任されたことに苦慮した
- 情報伝達(打ち合せ、講座開催など)に困った話をよく聞いた。zoom主体に利用方法をまとめている
- 市民活動ステーションが使えず印刷や会合が出来なかった。会報も発行できなかった
- 講演会を2回中止した
- カフェを休みにしたため収益が下がった

Q5 役員・会員への連絡方法を教えてください

全てメールで対応。一部電話、ファックス、ハガキでの通知、書類送付(郵送)、SNS などの方法を併用したという意見が大半を占めました。

また全て文書を郵送する形で対応したという団体もありました。

その中で下記のような記載がありました。

○ウェブ会議を実験的に開催

○役員には電話、メールで連絡したが、会員には会報で知らせているため、うまく情報伝達ができなかった

○メールで事足りたと思う

○ラインでの連絡を採り入れた

○メールと電話を主体とし、必要な時には対面で会議。会員向けに zoom の練習をした

Q6 今回の自粛要請について思ったこと、感じたことなどがあれば記載ください

○自粛要請が必要なことが、飲食店との契約が解除されて困った

○市内すべての施設を閉鎖するのはどうか? 申込順で人数制限し、消毒液などを団体側で準備して使用出来ればよかった

○当会の事務所の鍵管理について、市民活動ステーションの方にお世話になった

○自分は衛生管理をしっかりしていて感染の心配はないと思う

○公共施設がすべて使用できないのに困った。条件次第で部分的に使用できるように考慮してほしい

○利用者の家族も自粛しているため、利用の縮小が叶った。スタッフの協力も大きかった

○通常の活動に制限があり、利用者の楽しみが減ってしまった

○市民活動ステーションは3密にならないように配慮した上で、印刷機や会議室を開放してほしい

○近隣センターもすべて閉鎖されたので、予定していた講演会ができなかった。緊急事態宣言が解除された後も我孫子市は6月も閉館を決め、6月の活動も中止となった

○野外の活動をどのくらい自粛すればよいのか迷った

○個人情報とはいえ、コロナ感染者の情報が少な過ぎる。男女、年齢、感染ルート、おおまかな地域などが分かれば自己防衛ができる

○市民活動ステーションは、5月から職員が印刷してくれるようになったが、それも制約があり、料金も高かった。印刷については、団体から1名に限って入室し、自分たちで出来るとよかった

○我孫子市は罹患者が増えなかったのはよかったと思う

○実態をしっかり把握して、行動を決めるには国や行政から出される情報が画一的で、不十分過ぎると思った

○今後の自粛を想定して、経営面のリスクに対する対策、通所や対面を避けたり取り組みの加速に向けた施策を徐々に敷設するビジョンが増えた

○自粛はやむをえない。今後はユーチューブや zoom などを駆使して、リモートで活動を展開する必要がある

○6月以降、他市町村では公共施設の利用が再開されたところもあったが我孫子は遅れているという声を多く耳にした

○大変な事態にほとんどの市民団体が機能不全に陥ってしまったことが大変残念だった

○要支援者を中心として、今後は地域でいろいろな社会問題が顕在化してくると思う。すでに鬱症状を訴える人が増えている

○市民活動も新時代到来と思った。メンバーは他の団体に加入するなどして、知見を活かし活動している

○初めての経験で、先のことが見通せずに困った。今後の事業のあり方をあらためて見直したい

○自粛が長期にわたれば活動が停滞する。先の見通しが立たず、イベントなどの開催時期や内容の計画も出来なかった

○検査体制を整えておらず自粛要請をやむをえない。今後リモートでの活動を展開する時代と認識する必要がある

○情報発信が遅い。施設がいっせいに休館・閉館となったが、代替案や出来る工夫について知らせてほしいと感じた

○初めての経験で先のことが見通せなくて困った。今後の事業のあり方について、改めて見直していきたい

アンケート集計を終えて



公共施設などが一斉に閉館・休館となり、突然活動が制限されたが、行政が一方向的に決めるのではなく、活動団体と協議し、知恵を出し合って対応してほしい。自分たちで対応出来ることは限られているので、緊急に相談窓口を開設するなどの必要があったとも感じている。未経験の事態に遭遇して、いろいろな問題を目の当たりにしたが、ネットワークとしては行政へアンケート結果を提出するなどして、今後のあり方も検討していきたいと思う。またこのタイミングで公共施設の料金が値上げされることになり、事業収益が減少している団体も多い中、もっと慎重な対応を望みたかったと感じている。

回答団体(24団体)※回答順に記載

白樺派のカレー普及会 レイチェル・カーソンあびこ 認定 NPO 法人東葛市民見
人の会 我孫子の文化を守る会 特定非営利活動法人虹の会 宅老所虹の家 我孫
子市九条の会 NPO 法人手賀沼トラスト 美しい手賀沼を愛する市民の連合会 我
孫子市消費者の会 あびこ型「地産地消」推進協議会 我孫子市地球温暖化防止推
進協議会(エコライフあびこ) 我孫子の景観を育てる会 就労移行支援事業所エー
ル我孫子 NPO 法人元氣塾 我孫子カルチャー&トーク NPO 法人ふれあい塾あびこ
特定非営利活動法人みんなの広場「風」 我孫子健康生きがいづくりアドバイザー
協議会 NPO 法人 ACOBA NPO 法人わごころ NPO 法人バソコン楽しみ隊 あびこ女
性会議 あびこ市民活動ネットワーク 自然エネルギーをすすめる我孫子の会

コロナ禍の中での障がい者施設

特定非営利活動法人みんなの広場「風」施設長 栗原祐子

当施設へ厚生労働省からのコロナ感染予防についての事務連絡が来たのは2月18日だった。20日に予定していた防災センター訪問研修を中止し、コロナ予防対策について職員と利用者家族に周知を図った。その頃すでに、利用者から出勤が心配だとの声が出始めていた。3月23日に我孫子市で感染者が出て4月7日に緊急事態宣言。当施設も職員から休業するべきだとの意見も出た。



使用が難しい方達とスタッフの命の安全を守り、3密状態を作らない環境に配慮した作業や食事や送迎を行なっていくのは普段の倍もの労力と精神的な苦勞があった。

障がい者施設は、県も市も休業はできるだけ避けるようにとの方針だった。在宅勤務の利用者への、自宅作業や生活の見守りのための自宅訪問や電話訪問や、持ち帰ってもらう作業物や課題準備にも追われた。4月5月はカフェも閉めて、収入が減り、利用者への給料は持ち出しとなった。

しかし、障がい者が自宅に閉じ籠もる事家族の負担や、本人のリスク（生活やコミュニケーションのスキルが落ちる、じっと家にいられない、生活リズムや食が乱れる、メンタルが保てない等）、が大きいため、利用者が施設に通えるために知恵を絞り、短縮日課での利用を準備した。さらに、全国的にも感染者の数が増え、障がい特性も家庭環境も異なる利用者と家族の希望を把握しながら個々に合った在宅作業日課を作成し間引き出勤への協力を求めた。間引き出勤で出勤者が少なくても、コロナ予防理解が難しく、手洗いやマスクの

利用者への給料は持ち出しとなった。

一番大変だったのは、状況判断だった。自分で実態をしっかりと把握して状況を判断して、行動を決めていくための、国や行政から出される情報は画一的で、不十分であった。日々複数のニュースに耳を傾け、地域状況や利用者のニーズ等、様々な判断材料を集めて、エビデンスのある活動内容を決める事はとても大変だった。今回、人類はこれだけの大きな犠牲を払ったのだから、もっとたくさんの事を学ばなくてはと思う。

問題山積の生涯学習講座

NPO 法人ふれあい塾あびこ理事長 秋田桂子

当塾は過去20年間、毎月4～5回以上の講座を開催してきたが、新型コロナ防止のため3～7月の全講座を中止した。

3月講座は直前に全講座中止を決断、2月末までに市内各地の掲示板で掲示し、常連受講者にはメール、郵送などで通知した。一部地区では3月1日に新聞折り込みでも通知した。3月7日に、けやきプラザ・ふれあいホールで開催予定の音楽コンサートは、400枚以上の前売り券払い戻しに忙殺された。中止に伴う演奏者との打ち合わせなどもあって、2月末から3月にかけて、多大の手間と出費を余儀なくされた。

新型コロナ防止のための自粛要請は、緩和の方向だが、

ふれあい塾あびこ
3月全講座中止のご案内

皆様はふれあい塾あびこ講座へのご参加ありがとうございます。
この度の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、多くの皆様からご参加いただいておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、講座の中止をお願いいたします。大変申し訳ございませんが、ご理解とご協力をお願いいたします。

◆3月7日(土) 14:00-16:00(けやきプラザ・ふれあいホール)
「ペーパークラフト講座250年記念
村上敬二アナリサイタル」
前売券500円(二重払い) 1500円(1500円以上、チケットを2枚購入)
※前売券は3月7日まで有効です。この講座でもお申し込みください。

◆3月8日(月) 13:00-14:30(アビコホール)
「ふれあいの歴史から見るこのまちの未来」
講師 野村浩一 多田孝子

◆3月9日(火) 13:00-14:30(アビコホール)
「西洋美術講座 中世ヨーロッパの美術と十字架」
講師 藤田大輔 美術家 渡辺光夫

◆3月12日(金) 10:00-11:30(アビコホール)
「シリーズ 音楽文学の日はいつか」
講師 藤田大輔 音楽家 渡辺光夫

◆3月16日(月) 10:00-11:30(アビコホール)
「シリーズ 音楽文学の日はいつか」
講師 藤田大輔 音楽家 渡辺光夫

NPO法人 ふれあい塾あびこ
お問い合わせは 047-1564-0371 まで

新型コロナ以前に戻ることは期待できそうにない。当塾は公共施設を会場としており、いまイベントなど開催の目安となっている「人と人との距離の確保、マスク着用、参加者名簿の作成・その行動管理」などを、限られた運営メンバーで徹底することは容易でない。また「参加規模は100人以下、かつ会場定員の半分以上」となると、10月からの市の施設利用料値上げも加わって、講座収支は一段と厳しいものになる。

市内の他の市民団体にも、同じような悩みを持つ団体があると思われるので、今後

市民活動支援を検討していただきたい。

・・・＜ご存じですか？＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

自分の身近な団体等への寄付でも税制上の優遇措置が受けられる!!

自分が寄付したい身近な特定の団体（NPO など）がある場合、社会福祉協議会を通して、その団体を指定して寄付を行うと、寄付金控除を受けることが出来ます。ぜひご利用下さい。

※詳しくは、「我孫子市社会福祉協議会」事務局にお問い合わせください。(04-7184-1539)

分科会の活動状況

コロナの影響を考えて活動をどう変えていくか

こども応援団 分科会

子ども分科会は、引き続き困難を抱えた子どもたちを応援する事業を行います。新型コロナの影響で大きなイベントができない状況ですが、工夫して実施したいと思っています。

今年度は、引きこもり予備軍としての不登校について我孫子の実情を知り、地域がどのような協力・支援ができるかを考えます。11月28日(土)教育研究所の遠藤所長をお招きしてシンポジウムを予定しています。詳細が決まりましたら「広報あびこ」や当会のホームページでお知らせしますので、ぜひご参加ください。

(担当幹事 柳川眞佐子)

地域包括ケア 分科会

地域包括ケア分科会では、前年に引き続き、我孫子市の地域共生について考えていきます。前年度は「地域共生社会づくりを考える」というテーマで、事例をもとに地域共生社会とは何かを考えるシンポジウムを開催いたしました。今年度は「高齢者が実際に抱えている生活課題」と「地域でできる取り組み」について、我孫子市職員と一緒に検討するシンポジウムを開催予定です。詳細が決まりましたら市の広報や当会のホームページでお知らせいたします。

(担当幹事 関口隆彦)

防災 分科会

コロナの影響で活動がままならない状況でもあり、今年度は、原則として市民活動ステーションによる企画・運営に参加しサポートしていく方針です。

(担当幹事 重田幸子)

市民活動支援 分科会

「コロナ時代」の市民活動を語る集い 8月6日、オンライン会議サービス Zoom で

新型コロナ蔓延防止の規制は解除されてきていますが、以前のような活動環境に戻ることは期待できそうになく、市民活動団体にも「コロナ時代」への対応が求められています。市民活動支援分科会は、会員の皆様のこの対応を何らかの形で支援することを緊急課題と考え、とりあえず、あびこ市民活動ステーションと共催で、オンライン会議サービス Zoom を利用して、8月6日午後1時30分から、「コロナ時代の課題とそれへの対応について語り合う集い」を開催します。

集いは Zoom の利用体験を兼ね、こんど本会サポーターになられた IT コンサルタント栗原一朗さん(市内青山台)に、利用が急増しているオンライン会議サービスをはじめとする「コロナ時代」の市民活動での IT 活用についてお話しいただきます。

また、新型コロナにより運営が厳しくなっている団体は、いまでのような国や民間団体の給付制度、寄付、基金などのサポートが利用できるかについて、我孫子市市民活動支援課やあびこ市民活動ステーションに解説していただきます。

あとは皆様で自由に意見交換していただきます。

参加の申し込みは、7月末日までに、メールで、あびこ市民活動ステーション(abikosks@themis.ocn.ne.jp)まで。当日のミーティング ID、パスワードなどをご連絡します。今回はご自分で Zoom に参加できる方を対象にしますが、この際 Zoom 参加要領を知りたい方は、同ステーションにご相談ください。

(担当幹事 多田正志)

嘉納治五郎銅像の周知活動について

まちづくり分科会は本年3月に我孫子の文化を守る会と協働で嘉納治五郎の銅像を我孫子の観光スポットとして広く知ってもらうことを行政とともに推進することを事業計画として活動を開始しました。コロナウイルス騒ぎで一旦活動は中断しましたが、嘉納治五郎の銅像は4月に予定通り建立されお披露目も済ませました。これを受けて新たな進め方として、嘉納治五郎を文化都市我孫子の象徴として市民を始め多くの方々に知ってもらうため、我孫子市関係行政機関に働きかけを行い「観光活動の輪」を広げていきたいと考えております。

(担当幹事 中條信三)

あびこ市民活動ネットワーク役員会報告(2020.4~6月度)

- ① 4月5月6月役員会は新型コロナウイルス感染拡大防止自粛のため市民活動ステーション閉館により中止。
- ② 会報の発行について、4月15日発行
- ③ 4月の総会については延期し、5月17日(日)午後2時からNPO法人わごころケアセンターで開催した。
- ④ 総会資料を4月末に発送し、はがきで委任状をいただき、総会は出来るだけ小さい規模で成立させた。
- ⑤ すべての印刷業務はステーションで代行印刷し、会報も総会資料に同封し発送作業は数名で行った。
- ⑥ メールで連絡を密に取り合いながら準備を進めた。
- ⑦ 総会報告はメール配信で報告した。
- ⑧ 6/2ズーム講習会実施。

令和2年度総会報告

〔日時〕令和2年5月17日 14時～15時 〔場所〕NPO法人わごころ・ケアセンター
(議事内容成立に関する総会員数75、出席者14、委任状41、総計55名 依って総会は成立した。)

- | | |
|--|---|
| 〔議案1〕 1、平成31年度事業報告
2、〃 決算報告
3、〃 監査報告
(報告を受け、議案1は拍手で承認された。) | 〔議案2〕 1、令和2年度事業計画案
2、令和2年度収支予算案
3、役員人事案
(議案2を一括審議し、拍手で承認された。) |
|--|---|
- (担当幹事 渥美節子)

~~~~~☆ 事務局 から ☆~~~~~

- ◆《入退会》なし
- ◆次号は10月15日発行予定です。会報に、催し、求人、他の会員への呼びかけなどの掲載を希望される場合は、事務局(メール a23se@cocoa.plala.or.jp)まで、9月末日までにご連絡ください。
- ◆アドレスご登録の会員には、この会報や、催しのご案内などをインターネットでもお届けしています。アドレスの新規登録をご希望の会員も上記にご連絡ください。
- ◆各団体の役員・担当者・連絡先等に変更があった場合は、その都度、あびこ市民活動ステーションにFaxにてご連絡するようお願いいたします。(Fax 04 7165 4370)



あびこ市民活動ステーションからのお知らせ



長らくの休館でご不便をおかけしました。7月1日より、様々な制限はありますが再開しました。我孫子の市民活動が再び活性化するように、事業を進めていきます。

「市民のチカラまつり2020」は、展示とオンラインでまずは9月に行います。今年度中に対面式で行えるような状況になれば、もう1日開催をと考えています。

- <日 時> 9月27日(日) 終日(時間未定)
- <会 場> けやき広場、アビシルベ、けやきプラザ2階第1ギャラリー、第2ギャラリー、アビスタ・ストリート
- <内 容> コロナ時代の市民活動団体紹介(展示)、オンライン講座のYouTube配信、Zoomを使った子ども向け講座、屋外でのワークショップ、販売など